

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631
■ウェブサイト■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp
■発行人■ 李 明生 koho@jelc.or.jp
■印刷人■ 精文堂印刷株式会社
■定価■ 1部 40円(郵税を含む)
■振替口座■ 00190-7-71734

説教「受難節を憶えて——あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ——」

日本福音ルーテル熊本教会・玉名教会 牧師 杉本洋一

イエスはお答えになった。『人はパンだけで生きるものではない。

神の口から出る二つの言葉で生きる』と書いてある。』

マタイによる福音書4章4節



伊藤早奈

②4「祈り」

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」(マタイ7:7)

「どうして今私はここに
いるんだろう。」と良く思
います。きつとあの時も命のこ
とばであるイエス様と共に
あの人が私と一緒歩いて
くれたからだ。

生きていく中で一人一人そ
れぞれがいろんな人に出会
うでしょう。そのあなたが出
会う人も必ずイエス様が共
におられます。私は検査入
院の時に強い孤独を感じ
「辛い時に話をゆつくり聴い
てあげる人になりたい」と
ますカウンセラーになりた

いと思い資料をかき集め始
めました。その時は一般的
な勤めをしていたので社会
人入試ができる学校を探し
ていました。基本には必ずキ
リスト教があつて欲しいと
思いながらたくさん資料を
送つてもらいましたが全然
見つからず困っていました
た。ある時知人が知り合い
の心理学を学んでいる人に
相談したところ、ルーテル
学院のカウンセリングコー
スを紹介されました。

その導きがあれば私は
今ルーテル教会にはいま
せん。学校でいろんな仲間
や先生に出会いそしてみ
言(ことば)に出会い今が
あります。神学校卒業の時
久しぶりに会った、私に学
校を紹介して下さいた方
が「こうなると思つてまし
た」と言われました。それ
を聞いて私は「祈つて下
さつてたんだ」と初めて気
づき感謝しました。一人一
人にはいつもイエス様が共
におられます。それは今も
これからもずっと。「あなた
は一人ではありません」



W. ブレイク作「最初の誘惑」(1815-1819年)
ケンブリッジ・フィッツウィリアム美術館所蔵

3月2日の聖灰水曜日
から、典礼色も「紫」に変わ
ります。礼拝式文からも
福音に先立つて歌われてい
た「ハレルヤ」は歌われな
くなり、替わつて「キリスト
はおのれを低くして、死に
至るまで、しかも十字架の
死に至るまでみ目に従わ
れた」との詠歌が唱えられ
ます。この期節は、典礼色
が示すとおり、真剣な悔
い改めの時となります。

前年の棕櫚主日に使わ
れた棕櫚の葉を燃やして
作った灰を取つておき、こ
の日に信仰者の額に、灰
で十字のしるしをつけな
がら、司式者は「あなたは
は、塵であるから、塵に帰
ることを覚えよ」とのこ
とばを添えることも行わ
れてきました。

この「ことば」(の持つ意
味)と「灰」により、メメン
ト・モリ(memento mori
「汝の死を忘れるな」が
意識されてきました。こ
の世の美しさも、地位も
名誉も財産も、しばしの
栄華にすぎず、やがてそれ
らは夢のように消えてい
く。どんな人であつても、
死んだときに残るのは、
ただ二握りの灰であるとい
う死と、朽ちるものであ
るということを学ぶこと
でもあるということ。つま
り、それはキリストの苦難と
死の意味について考える
ことであり、その苦難と
死へイエス・キリストを導
いたのは、わたしの「罪」で
あり、真の悔い改めを心
に刻むことを「灰」は教え
ようとするのです。灰は

死のシンボルですし、生命
が、もうぜんぜんないとい
うしるしでもあるのです。
もう3年目に入ります
が、私たちは、コロナ感染
の不安や心配、閉塞感の
中にあります。聖餐式も
行いづらい中にあります。
パンと葡萄酒をもつて、キ
リストの体と血をいただき
くことをしてきました。
それと同様に、聖灰水曜
日は、額に灰をつけるこ
とを通して、自分が罪人
であることを、自分が罪
の中にあることを、死ぬ
ことを憶えるのです。

「神は、その独り子をお
与えになつたほどに、世を
愛された。独り子を信じ
る者が一人も滅びないで、
永遠の命を得るためであ
る。」(ヨハネ3:16)とは、
神がどれほどの愛をもつ
て、一人ひとりを愛してく
ださっているかを感じる
ことのできる言葉です。
私達の罪を私達から取り
去るために、イエスさまが
十字架上で死ななければ
なりません。死ななければ
イエスさまの苦しみ、痛み、淋
しき、捨てられた事、悔

いのかという問いです。人
は、心も体もあるものとし
て創られました。その全体
において、心において生き
る価値を味わっているだ
ろうか、人としてこの世に
生まれたこと、生かされて
いる喜びはあるだろうか
と尋ねておられるのです。
イエスさまは40日間の
断食のあと、ガリラヤに
戻つて、共に食べ、飲み、喜
び合う共同体を作つてい
きます。そこでイエスさま
は、イスラエル民族が「荒
れ野の40年」で学んだは
ずの、「人はパンだけで生
きるものではない」という
精神を受け継いで、貧し
い者や弱っている人、ある
いは罪人といわれて社会
から排除されているよう
な人びとを招いて食事を
するということを実践し
ていきました。

春の全国ティーンズキャンプ inオンライン

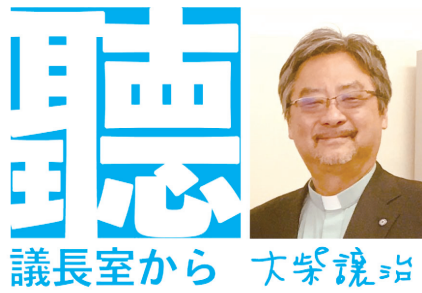
今年の春キャンプもオンラインで開催します！
今年はゲストにアメリカ帰りの関野和寛牧師を
お招きし、「自分の限界を超える」というテーマ
をみんなで分かち合います。ぜひ参加してね！

日程：3/27(日)16～18時
(終了後、懇親会があります)

テーマ：「自分の限界を超える」

主題聖句：ガラテヤの信徒への手紙6章2節
参加要件：2003/4/2～2010/4/1
生まれの方

申し込み方法：
3/20(日)までに、以下のメールアドレスに
①名前②住所③生年月日④通っている教会名を
記載の上、申し込みください。
折り返し、当日のZoomミーティングの
招待URLをお送りいたします。
メールアドレス s-morita@jelc.or.jp
(大江教会牧師・森田哲史)



合するかは日本に生きる
キリスト者として一人一人
に求められている信仰告白
的課題でありましょ
う。事柄としてはキリスト
教の日本での「文化内開
花／土着化／文脈化」と
いうことになります。

大阪教員の林雄治さん

「二つのJ」を愛する文楽・豊竹呂太夫

内村鑑三に「われは二つのJを愛する。即ちJesusとJapan」という言葉があります。確かに私たちの国籍は天にあるとしても、この二つは共に天から贈り与えられている賜物。遠藤周作は「洋服のキリスト教を「和服」にする」という課題を自らに課しましたが、ともすれば異質なこの二つのJをどのように統

「意思のない人形(木片)」に自分を投影しつつ、己の想像力によって喚起される「私自身の物語」に出会うわけです。この「四位一体」総がかりのすさまじいエネルギーで物語が展開されていく文楽の舞台。これがもう300年以上続いてまして、伝統芸能、古典芸能と呼ばれる所以で

す(朝日新聞社言論サイト「論壇」2022年1月3日掲載記事より)。
氏は2000年に豊竹英太夫という名で自らの信仰告白として新作『Gospel in 文楽』イエスの生誕と十字架を創作。これまで人形入で17回公演されてきました。DVDもあつて部分的にはYouTubeで鑑賞も可能です(英語字幕付)。「もろ人の罪を贖わんと十字架にかかりたもう、人となりたる生ける神なり、生ける神なり」という語りは観る者の心にダイレクトに響きます。2017年10月29日には大阪教会でも宗教改革500年を記念した楽劇「ルター」文楽とルネサンス・ダ



ンスの邂逅(上村敏文作)の中で「ゴスペル文楽」を抄演していただきました。その記録DVDをドイツや米国の教会に持参したところ大変に喜ばれています。キリスト教の日本文化内開花を考えると、一つの貴重な実践例です。本年7月6日には兵庫県立芸術文化センターで18回目の公演が行われる予定で今から楽しみにしています。天から賜った二つのJを恵みとして深く味わいたいものです。

世界の教会の声

浅野直樹 Sr.

(世界宣教師主事)

市ヶ谷教会・スオミ教会牧師
変化の時代における洗礼

ルーテル世界連盟LWF北欧地区の5教会がプロジェクト「変化の時代の洗礼」を企画、1月末にオンライン協議を行い、異なる状況や年代層に

どうするかなどについて話しあわれました。
このプロジェクトは2020年から2022年にかけて行われ、北欧5カ国のルーテル教会(デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン)が進める総合計画「変化の時代における教会」の第1弾にあたります。

プロジェクトの責任者ハラルド・ヘグスタット教授によると、「北欧の状況は類似しているとはいえず、似た点もあり、たとえば洗礼式は主日礼拝に教会でするだけでなく、自宅やそれ以外の場所だったりします。」

「COVID19はこうした洗礼のやり方に確かに影響を与えています。パンデミックが始まって小児洗礼者数は減少しました。今後「ノーマル」に戻るかどうかは今の時点ではなんとも言えません。」

「洗礼式を礼拝という公共の場ではなく、個別に行うケースが増えてきました。この傾向はパンデミックが今後どうなっていくかに関わらず、北欧の教会では続く可能性があります。」

プロジェクトはその成果として18の検討課題を提示しました。これは各教会から出されたテーマを手がかりとして、洗礼式の具体例を紹介しつつ課題や問題点を検討した結果、整理されたものです。これが各教会での洗礼の実践を規制するというわけではなく、どう活用するかは各教会の判断に委ねられます。

「プロジェクトを実施したことで思わぬ効果もありました。教会指導者や牧会者レベルでのつながりが強くなりました。これまでも北欧の各教会では様々な共同作業がありますが、お互いから学ぶという姿勢が今回は特に顕著でした。共通言語として英語を用いたのもよかったです。」(ヘグスタット教授)

イレニウス・ルカスLWFヨーロッパ局長は次のように述べています。「LWF加盟教会の共同作業だったという点に注目しています。信仰の基礎的テーマについて共同研究で

きたことで、今後もっと幅広い神学的な議論と意見交換が可能になるでしょう。他の地域でもこのプロジェクトを参考にしたいです。」

プロジェクトを締めくくるとオンライン協議会では、洗礼に関して次の4点から全部で18の検討課題が提示されました。(1)社会変化と統計、(2)洗礼の神学、(3)洗礼のコミュニケーション、(4)洗礼の実践。

※18の検討課題は下記サイトで紹介されています。
<https://churchesintim.esofchange.org/recommendations>



2022年度教会手帳住所録訂正のお願い

2022年度教会手帳住所録59頁、社会福祉法人ベタニヤホームの「母子生活支援施設ベタニヤホーム」の電話番号が古い情報のままとなっております。お詫び申し上げますと、誠に、謹んで訂正させていただきます。現在の情報は以下の通りです。

母子生活支援施設
ベタニヤホーム
電話(03) 6240
12785
FAX(03) 6240
12795

「教会讃美歌 増補」解説



②創作讃美歌解説1

※公募に寄せられた創作讃美歌の作者による解説を紹介いたします。

石原祐子
(賀茂川教会)

増補24「救いの主イエスよ」

*待降節に

「わたしの魂は主を待ち

望みます

見張りが朝を待つにもまして

見張りが朝を待つにもまして

『然り、わたしはすぐに来る。』アーメン、主イエスよ、来てください。』

(黙示録22:20)

主の「降誕をともに待ち望む恵みを感じたいします。

闇しかみえない日。絶望

のなかに落ち込んで抜け出せないとき。眠ることができない長い長い夜。

「神さま、来てください」

とひたすら呼び求めます。

わたしたちはあてもなく願うのではない。ひとりです

待つのではない。今このときも、同じ地上のどこかで

主を求めて祈っている多くの友と共に、すでにみわざを始めてくださっている主の確かさに信頼して、待ち望みます。

心合わせて信じ、歌い、祈り合いながら、歩ませて

いただきたいと願います。

増補34番「いかに幸いなことか」

*主にある友のために

友の病気を知らされ、そのつらさを思い、なんと声をかけたらよいのかわからず祈っていた日に、このみことが与えられました。悲しんでいるわたし



オンラインによる全国青年の集い Pray!Play!Friday!!! 報告

高濱遼太
(健軍教会)

全国のルーテル教会
につながる35歳以下の
青年を対象としたオン
ラインでの青年の集い
「Pray!Play!Friday!!!
【略称「ぷれぷれ」が昨
年7月から12月につ
て月に1度、6回開催
され全国から各回30
〜40名ほどの参加者
が集いました。

合いの時を定期的に持
ち、新たな同世代の信
仰の友との出会いの場
所を持てたらと願って
のことであり、有志の
青年によつて企画され
ました。今回の【ぷれぷ
れ】では、共に聖書を開
き、みことばを分かち
あうことで、神様との
関係、教会との繋がりに
ついて考えるだけでな
く、7月16日は竹田
大地先生、8月27日は
角本浩先生、9月3日
は和田憲明先生、10月

1日は永吉穂高先生、
11月26日は河田優先
生、12月17日は関野和
寛先生をお招きし、青
年に向けた聖書のお話
をしていただきました。
さらに様々なレク
リエーションやトーク
セッションを企画し、コ
ロナ禍によつて失われ
ていた青年同士の交流
の時を持つことができ
ました。また【ぷれぷ
れ】では全国のルーテ
ル教会の青年だけでな
くルーテル学院大学の
学生も参加の対象とし
、新たな仲間との出
会いの時とすることが
できました。

コロナ禍によつて青
年活動のあり方も大
きく変化しましたが、
対面では簡単には会
うことができない全国
の仲間とオンラインでつ
ながることができ、こ
のような状況にあつて
も神様を通して私たち
がつながっているとい
うことを、参加者一人
一人が実感できたので
はないかと思えます。【
ぷれぷれ】は12月をも
つて終了とさせて頂き
ますが、今回の企画が
青年にとつて神様や教
会とのつながりにつ
いて考えるきっかけと
なればと願っております。

最後になりましたが、
ゲストとして参加
していただいた先生
方、【ぷれぷれ】のた
めに案内告知してく
ださった方々、スタッ
フと

して尽力してくださ
った方々、何より【ぷ
れぷれ】を最後まで導
いてくださった神様
に感謝しこの報告を
終えたいと思います。



ルター研究所 「マグニフィカート」報告

江口再起
(ルター研究所所長)

1521年、ルター
は珠玉の名品『マグニ
フィカート講解』を出
版しましたが、その5
00年を記念して、ル
ター研究所では『グ
リマス講演会』をオン
ラインで開催しました
(2021年12月12
日)。全国100カ所
で視聴され盛会でし
た。

マグニフィカートと
は、受胎告知を受けた

マリアの、神への賛美の
歌です(「マリアの賛
歌」ルカによる福音書
1章46節以下)。ヴァ
ルトブルク城に保護幽
閉されていた時、ルター
はその解説書を著わし
ました。

講演会は3部構成
で行われました。第1
部は江口再起(ルター
研究所所長)の講演
「待つということーマ
リアと現代」でした。こ
こで「待つ」とは、神の
顧みに信頼して謙虚に
生きるということ

です。このテーマを現代
ドイツの哲学者ハイデ
ガーの「ゲラッセンハイ
ト(放下)」という言葉
を参考に考えました。
第2部は、バツハ作
曲「マグニフィカート」
の見事な演奏(聖トマ
ス教会でのT・コープマ
ン指揮)。加藤拓未
(バツハ研究者)が解説
を担当しました。

第3部は3人の発
題者によるシンポジウ
ム「ルターとマリア」で
した(司会: 石居基夫
ルーテル学院大学学
長)。最初に滝田浩之
(JELC事務局長)
が、ルターを尊敬して
いた将来のザクセンの

統治者若きヨハン候と
の関係の中で、この名
著が執筆された経緯に
ついて、自らのこの本
の出会いを交えて話が
あり、次に多田哲(日
吉教会牧師)が当時の
カトリックとルターの
マリア像のちがい(祈
願から賛美へ、崇敬か
ら記念へ、代弁者から
共に祈る者へ)等につ
いて語りました。そし
て最後に安田真由子
(ルーテル学院大学講
師)が、専門の新約学
として女性の立場から
論じました。マリアは
1人の素朴な少女であ
った事、同じ恐れと喜
びを共有していたエリ

ザととの出会いの重要
性、また賛歌の底流に
権力への批判がある事
などが語られました。
三者三様、内容豊かな
シンポジウムとなりま
した(敬称略)。
*なお、第1部と第3
部の録画は、日本ルー
テル神学校のホーム

ページの「ルター研究
所」のサイトから見
ることが出来ます。



公告

この度左記の行為を
致しますので、宗教法人
法第23条の規定に基づ
き公告致します。
2022年3月15日
宗教法人日本福音ルー
テル教会
代表役員 大柴譲治
信徒利害関係人 各位
甲佐教会牧師館 解体
所在地 熊本県上益城
郡甲佐町岩下西園
・所有者 日本福音ルー
テル教会
・家屋番号 207番地
・種類 教会 牧師館
・面積 69.22㎡
・老朽化のため

定年教師挨拶

太田彦



私は昨年(2021)の7月心臓病のため退職させていただくことになりました。年度途中の退職は、遣わされている2教会と三つの保育園にまた教区に大きな迷惑をかけることになるので3月迄は頑張りたいたいと思いましたが、すでに入院を繰り返しておりその思いが単なる自己満足になって更なる迷惑をかけることが目に見えていましたので、担当医の復帰は無理だろうとの言葉もあり正規の定年まではまだ2年ありましたが退職を決断させていただきました。

「支えを感謝して」
杉本洋一



今、主のご用のために用いていただけたことを感謝しています。これまでかわりを持つていただいた多くの方々、とりわけ、遣わされた教会の信者・関係者地域の方々、そしてお付き合いくださった教職者に対しお礼を申し上げたいと思います。私は、神大卒業の後、キリスト教主義学校の教員として、そして牧師として働いてきました。忘れられないことがばかいです。得難い経験をさせていたたく時、間でした。喜ぶ者と共に喜び泣く者と共に泣き、なごいには、私が洗礼を受けてからずっと響いている言葉です。今はもう天に召された教える子のK君は、再び神学校へ戻って牧師になるようにとのきつかけを作ってくれた生徒でした。棺に入っ

た彼の顔は忘れられません。初任地の健康で、施設を通してのつながりを持ち、育つた子どもたちにとって、は郷里であることに違いありません。フィンランドでは素朴で熱心な信仰に生きる人々との出会いがあり、深いつながりを今も持っています。田園調布では、地域とのつながりを教会と幼稚園で教えられました。熊本・玉名は、歴史の大事さや熊本地震を通して、人との関係をいただきました。これまででの任地「健康教会・熊本・フィンランド福音ルーテル協会(フィンランド・ヘルシンキ)、田園調布教会・田園調布ルーテル幼稚園(東京)、熊本教会・主名教会(熊本)」

「新たな旅立ち」
徳野昌博



わたしは1980年3月に神学校を卒業し、東海教区の名土呂屋教会で按手を受けました。最初の任地は東海教区の岡崎教会で、5年間働きました。次に任を受けたのは、北海道特別教区の恵み野教会で10年間。そして、西教区の天主寺教会で3年間。その後、熊本本の九州ルーテル学院で8年間、大学と幼稚園のチャレンジャーとして働きました。その後、東教区の小石川教

会に転任し、16年間働いて定年退職します。42年間の現役牧師生活でした。40年で終えると、聖書的でいいなあなんて勝手なことを思っていました。が、最後の2年間は、いわゆる「コロナ禍」にあつて、教会の活動も、牧師の働きも制限してしまいました。そのせいか、すっかり定年教師になつた気分になり、小石川教会には申し訳ない思いでした。それでも、神様の恵みは牧師としての人生に働き、教会の歴史の中に働いていることを実感させられてきました。神様の恵みは、過去の歩みの中だけではありません。未知である、私の老い行く将来もまた、神様の恵みのみ手の中にあることを感謝します。思い新たに、喜んで「牧会委嘱」の任をいただいて、旅立ちます。皆さんありがとうございました。

中村朝美



40年前、ルーテル神学大学神学科神学専修コースに入学し、大学改組前の最後の卒業生です。荒れ野の40年とよく言われますが、私にとつても40年という年月はいろいろな変化がありました。当時、いろいろな場面、選択肢が欲しいと願っていました。今では任用形態も一般、嘱託を選ぶことが

ができ、夫婦同居、単身赴任、通称使用の選択も自由にできるようになりました。とても嬉しいことです。また、名簿から男女の区別を撤廃したことを通して「個を尊重することの大切さ」を伝えてゆければ良いと願っています。按手を受けてからずっと、「定年まで牧師生活を全うしなさい」と励まされてきたことは何より方おられたことは何より支えとなっていました。東海教区で20年間、希望岡崎、高蔵寺各教会、また九州教区での講壇交換を通して多くの教会で共に礼拝を守れたことは幸いでした。東海教区では炊き出しを始めとした野宿労働者支援に関わり、その後、宮崎教会を経て八王子教会を以て現職生活を終えることになりました。今までも支えに感謝いたします。

【防止を目指す】

ハラスメントの解決に取り組む組織は、発生した事案に対処するだけではなく、防止することを目的とする。そのために学習の機会を設け、継続する。今後、ハンドブックの作成、啓発活動に取り組む。

II. 教会財務

(1) 公益会計・基金会計・収益会計

2010年に総会において採択された「財政内容好転緊急提案」に基づき、日本福音ルーテル教会の公益会計、基金会計、収益会計は、これを持続的に運営する体制を整えてきた。今後、この方向性を堅持する。

(2) 土地・建物計画

教区を軸として進められる教会編成を土台として、持続的な建物計画に関して、収益事業の見通しから2028年以降、これを実行できる体制を整えていく。また、老朽化対策の規則改正を検討する。

■方策本文より

第7次総合方策本文 10. ハラスメント

(1) 被害届窓口の新設

ハラスメント事案に対処するために相談窓口を設ける。

(2) 解決システムの構築

解決に取り組むための体制を構築する。

では、現状の体制を維持することに努める。

■解説

「ハラスメント」

日本福音ルーテル教会は、あらゆる「ハラスメント」を許さないということを改めて、私たちが大切にしたいと思っています。そして何よりも「ハラスメント」とは何かという学びを深めていく必要があります。また「ハラスメント」事案の特徴として、できるだけ早い段階で「相談窓口」にご相談頂くことは事柄を深刻化させないためにも重要なことです。「相談窓口」を委託しているフェミグラム・カウンセリング東京は、24時間体制で相談を受け付けてくださっています。メールでも相談頂けます。

また「ハラスメント」を起さないことが一番大切なことです。私たちがいつでも「ハラスメント」の当事者になり得るという自己認識が必要です。そして「ハラスメント」を起してしまつた時に、できるだけ早く事柄の重要性に気づき適切な対応を取れる組織でありたいと願っています。個々の教会のみならず、関連する法人・施設、TNGの行うキャンペーンに関わる方々に、その点をご理解頂けますと幸いです。

「教会財務」

教会の財務については1969年のアスマラ宣言から50年を経過しています。2003年からは海外からの人的支援を除くすべての直接的金銭支援が終了しています。来年で20年を経過することになります。この間、日本福音ルーテル教会として自立路線と言われる道筋を様々な方策を通して形にしてきました。これらの経験を重ねつつ、これからも目まぐるしくかわる社会状況の変化に対応していくことになります。しかし財務的な経験を通してはつきり言えることは、最も確かな教会の財源は会員の皆様の「献金」です。収益事業は、特に今回のコロナ禍で明らかになるように大きく変動するものです。そして教会の様々な課題を解決していく糸口、それは個々の教会の確実な成長です。「確実」という言葉を用いました。この「確実な成長」のあり方について、第7次総合方策全体は語ってきたと理解しています。

方策の解説の場を与えられたことを感謝しつつ、日本福音ルーテル教会が、み言葉を伝え、隣人を愛し、平和を願う道を通して地道に、そして確かに「キリストの教会」に成長することを願っています。(一)